

秋冬ブロッコリー

やさいの里営農センター 営農指導員 高宮 秀隆



農業

テクニカルダイアリー



秋冬ニンジン

山武経済センター 営農指導員 古川 聡

適期播種

7月下旬の早播きは、高温による発芽不良のほか、肩部の障害（肩こけ・エクロ症等）や空洞症等の発生リスクが高まり、品質の低下やクレームにつながる可能性があります。播種開始は原則8月以降とし、品種ごとに定められた部会推奨の播種時期を守り、ニンジンの安定的な生産に努めましょう。

水管理

●播種前
土壌が極度に乾燥している場合は、耕うん前に20〜30ミほど灌水しましょう。耕うんの際、トラクター後部に鎮圧ローラーを連結し、土壌を軽く鎮圧すると、覆土の厚さが均一になりやすく、土の下から水分が上がるため、発芽が良好になります。

●播種後の管理

播種後から発芽までは、灌水を頻繁に行いましょう。スミサンスイなどの灌水チューブを用

品種の特性

JA山武郡市管内で栽培されている夏播き品種の中から、主要な品種をご紹介します。

●「おはよう」

播種後95日前後で収穫できる中早生種。播種期の幅が広く、栽培適応性が高いので、安定的に出荷できます。

●「サマードーム」

播種後95〜105日前後で収穫できる中早生種。抜群の耐暑性があります。

●「こんにちわ」

播種後105〜110日目で収穫できる中生種で、「おはよう」より10〜14日ほど晩生。アントシアンフリーで低温伸長性に優れます。

●「ブランドーム」

播種後115〜120日ほどで収穫できる中晩生種。花蕾の肥大に優れています。

病害対策

●黒すす病（写真①）

病原菌はカビの一種で、前



写真① 黒すす病

年の被害残渣や種子で越年して伝染します。気温25℃前後のときに降雨や強風によって多発します。そのため、被害が出た圃場での連作は避け、アブラナ科以外の品目で輪作を行うってください。また、多湿条件下で病気が多発するため、明渠を設置して排水対策を講じましょう。

発病した葉には、褐色小斑点や円形または楕円形の輪紋病斑が形成されます。やがて病斑中央部に穴が開き、病斑周辺は黄色に変色します。

花蕾は黒色の小斑点を生じた後、病斑が拡大して黒褐色に腐敗します。病斑部には黒色のカビを密生します。出蕾前に葉に病斑が発生すると、花蕾へ病斑が進展する可能性があります。

表② 黒すす病に使える薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
アミスター 20フロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内
アフエットフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内
パレード20フロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内

表③ 黒腐病に使える薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
バリダシン液剤5	800倍	収穫前日まで	3回以内
カスミンボルドー	1000倍	収穫7日前まで	4回以内

●黒腐病
黒すす病と似た病害の「黒腐病」は、低温・多湿によって発生する細菌病です。葉の周辺から病斑が現れ、病状が進むとV字または不整形を描くように葉全体に広がっていきます。発生初期は株を抜き取り畑の外に出すか、薬剤で防除を行います。

を柔らかくすることで、発芽が促進されます。

●発芽後

風や雨によって胚軸部分が露出したり表面が硬化すると、肩部への障害発生や酸欠による生育不良を引き起こします。条間を中耕・土寄せすることで、生育が良好になります。

土寄せ

茎葉で通路がふさがれる前に、圃場排水と青首防止を兼ねて、深めにゆつくりと土寄せを行ってください。収穫が1月以降になる場合は、12月下旬までに凍結防止のための土寄せを十分に行いましょう。

病害虫対策

●黒葉枯病について

発生適温は28℃前後で、晴天と曇雨天が繰り返されると発病が多くなります。地上部の被害が激しくなると根部肥大の停滞や首元の黒変が起こり、品質が低下するため、初期防除に努めましょう。

表① ニンジンに登録のある薬剤

適用病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
黒葉枯病	Zボルドー	500倍	—	—
	ベルフート水和剤	1000倍	収穫14日前まで	5回以内
	ストロビーフロアブル	3000倍	収穫7日前まで	3回以内
	ポリオキシンAL水和剤	500倍	収穫7日前まで	5回以内
ハスモンヨトウ	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	発生初期 (ただし収穫前日まで)	—
	アフーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内

●害虫について

ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫は、幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、発生初期に登録のある薬剤で防除することが重要です。早期発見・初期防除に努めましょう。

「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。



←登録はこちらから
(登録無料)

JA山武郡市の組合員なら
どなたでも登録できます。

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決! 栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市
営農なんでも相談室 (本所 営農部内)

☎ 0120-972-860

